

新潟県立大学地域連携センターは、 教員の地域貢献活動を積極的に支援しています。

地域連携センターでは、地域貢献活動を公立大学として本学が果たすべき重要な使命の一つと考えています。

本学が地域の課題解決を牽引する機関となるよう、本センターでは、本学の教員のそれぞれの専門性を活かした地域活動を積極的に支援しています。

◎ 津南町での子育て支援活動

子ども学科/
小池由佳准教授、角張慶子准教授、斎藤 裕教授

平成26年度より毎年度教員と学生が津南町(新潟県中魚沼郡)にある子育て支援センターと保育園を訪問し、支援活動を行っています。センターで保護者や保育士からの子育てに関する相談に応じることや、保育園で子どもたちと触れあうことは、地域の子育て支援に貢献できるだけでなく、学生の学びにもつながっています。



◎ 夏休みファミリーコンサート

子ども学科/石井玲子准教授、斉藤美和子教授

新潟市江南区からの委託を受け、子育て家庭を対象にしたコンサートを開催しています。例年申し込み受付開始日に満席になるほど、地域の方々に心待ちにされるコンサートとなっており、平成29年度も延べ約800人の方々に来場いただきました。コンサートにより、地域における文化芸術の振興に貢献できることはもちろん、子どもたちが音楽の楽しさに触れることで、心の豊かさを育む教育効果も期待されています。



◎ 病院・施設等における身元保証人等不在への対応マニュアルづくり

子ども学科/小澤 薫准教授

高齢化の進行とあわせて、社会的孤立が広がっています。そういったなかで、入院・入所、手術の同意、アパートの契約をはじめ様々なことに対して身元保証人等が強く求められています。身元保証人等がいないことで、病院、施設等がどのようなことに困っているのか、統計的に把握することを目的として、新潟県内616の病院、高齢者施設等にアンケート調査を実施しました。また、この結果をもとに、身元保証人等不在への対応マニュアルに関係機関と連携しながら検討しています。

◎ 「UNP米粉サブレ」の姉妹商品開発のアクションプラン

健康栄養学科/
金胎芳子教授、村山伸子教授、田村朝子教授、辻 友美助手

平成28年度、新潟県立大学のブランド化を目的として、校章デザインを用いたサブレ「UNP米粉サブレ」の開発、商品化事業に取組みました。材料に新潟県産の米粉を使用し、地域の製菓業者(サブレ商品化に向けた製菓指導)、福祉施設(商品の製造)、大学(商品化に向けて運営)とで、産福学連携事業を成功させることができました。平成29年度は、学生や教職員、外部消費者から寄せられた声をもとに、校章のデザインを残しながら、さらなる品質向上を目指した「チュールリップ型米粉サブレ」の開発を三条市の金型会社と連携して取り組みました。



◎ 福井県大野市が設置する道の駅への雪室の整備と活用

健康栄養学科/
曾根英行教授、神山 伸准教授

新潟県の地域の特性を活かし、雪を使用した天然の冷蔵庫「雪室(ゆきむろ)」を幅広く活用するための研究を行っています。

現在は、福井県大野市が設置する道の駅へ雪室を整備・活用すべく、大野市と協力しながら準備を進めています。



新潟県立大学

地域連携 センター ニュース

2018
vol.
01

COMMUNITY COOPERATION CENTER NEWS
特集



新潟県立大学 ■お問い合わせ先
地域連携センター

TEL:025-368-8225 FAX:025-364-3610
Mail:unpreco@unii.ac.jp URL:http://www.unii.ac.jp/
〒950-8680 新潟県新潟市東区海老ヶ瀬471番地

CONTENTS

- 地域連携センターのご紹介 1
- 地域との連携 2
- 教員の活動 3~4
- 学生の活動 5
- 公開講座開催報告 6

地域連携センターのご紹介



平成21年4月、新潟県立大学は、「国際性の涵養」、「地域性の重視」、「人間性の涵養」の3つを基本理念に開学いたしました。地域連携センターは、その理念実現の一端を担う機関として開学と同時に開設され、これまで10年間にわたって地域づくりや地域の共生に貢献できる人材の育成と、地域社会に開かれた大学を目指して活動してまいりました。

以下に、地域連携センターの役割と主な活動内容をご紹介します。

【 地域連携センターの役割 】

新潟県立大学の第2期中期目標を達成するため、その計画として以下の事項を定めており、地域連携センターではこれらの計画に基づいて活動しています。

地域貢献・国際化に関する目標を達成するための措置

(1) 教育研究等における地域や社会との連携・協力に関する目標を達成するための措置

地域の課題解決及び学生の視野拡大を図るため、教員と学生がそれぞれの専門分野を活かして地域貢献活動に参画する。

県民の生涯学習の場として、公開講座等の多様な学習機会を提供する。

(2) 産学官連携の推進に関する目標を達成するための措置

地方自治体や企業等の研究者同士の交流を図って、社会的ニーズの把握に努め、研究情報の交換や共同研究を推進する。

地域連携センターを中心に、産学官連携や地域連携を大学全体として推進し、情報発信する。

【 地域連携センターの主な活動内容 】

地域連携センターでは主に以下の3つを活動の柱としております。一部の活動については、その実績を次ページ以降にご紹介させていただきました。今後も本センターの活動については、ホームページ等により随時ご紹介してまいります。

1 産学官連携の推進

産業界・自治体・市民団体・他大学・NPO法人等と共に社会的課題に取り組むための事業展開や委託研究・共同研究を進めてきました。

- ・新潟市包括連携協定の締結(平成21年度～現在)(P.2で紹介)
- ・福島県南相馬市「子どもの福祉・教育分野に関する連携協定」の締結(P.3で紹介)
- ・新潟県津南町の子育て支援事業(背表紙で紹介)
- ・障害者支援施設、製菓店との連携による「県立大米粉サブレ」の開発(背表紙で紹介)

2 生涯学習の推進

県民に多様な学習機会を提供するため、開学以来、毎年度公開講座を開催してまいりました。講座のテーマは、新潟の食や伝統工芸などの「自文化」を見直すものから、保健医療や福祉に関する新潟の地域課題の解決を考えるもの、新潟水俣病や中越大地震など新潟が過去に経験した公害や災害から得た教訓を伝えるものまで多岐にわたっております。今後も県民にとって意義のある講座を開催できるよう努めてまいります。P.6では、平成29年度に開催した公開講座についてご紹介しております。

3 学生の社会参加の推進

学生が地域活動に積極的に参加することにより、視野の拡大を図り、地域貢献力を育めるよう支援してまいりました。



地域との連携

本学は、地域に根ざした公立大学として、共に地域の課題解決に取り組むべく、新潟市を中心とする県内の自治体、大学等と連携を図っています。

新潟市東区自治協議会との連携

みなさんは新潟市の「区自治協議会」というものをご存じでしょうか。新潟市のHPによると、「新潟市が目指す分権型社会を実現し、市民と行政との「協働」によって、住民自治の推進を図るために各行政区に設置された市長の附属組織」と説明されており、新潟市が政令市に移行した平成19(2007)年4月にスタートしています。なかでも「東区自治協議会」は、「人が育ち、地域の力が生かされ、心地よく暮らしやすい、魅力あふれる活気のあるまち」を目指して、地域の防災、共生社会の創出、産業等の魅力発信、公共交通の課題解決などに取り組んでいます。また東区唯一の大学である本学と連携(協働)した活動にも取り組んでいます。

平成29年度の東区自治協議会と本学の協働の活動として、7月13日に本学ばれっと2階にて、ワークショップ「若者が考える東区のまちづくり」が開催されました。山中知彦教授の「地域社会論」を受講する学生125名と、自治協議会委員25名が、「発災時、学生として“地域の中で”できることは何か?」、「独居老人が社会と関わるために、市民にできることは?」、「市内随一を誇る産業を東区の魅力として発信する内容と方法は?」の3つのテーマについて、12テーブルに分かれて意見交換をしました。参加した自治協議会委員からは、学生たちの地域活動への参加意欲が感じられ、学生たちの若い感性とユニークな視点を今後のまちづくりに活かしていきたい、などの感想がありました。

さらに来年度には、東区特産の野菜作りに本学生が参加し、新しい料理を創作する計画も進んでいます。



新潟市との包括連携協定

本学と新潟市は平成21年に包括連携協定を締結し、以来、協力しながら地域の発展と、地域に貢献できる人材の育成に取り組んできました。平成29年度も例年開催している連携協議会が12月1日に新潟市役所において開催され、今後も新潟市が行うさまざまな取組みに本学の学生が積極的に参加することで、人口流出、保育士確保、健康寿命延伸 **注目☆** など、新潟市の抱える課題の解決につなげていくことが確認されました。



注目☆ 新潟市が健康寿命延伸に向けて行っている取り組みの一つに、市民の減塩と野菜摂取を目的とした「ちよいしおプロジェクト」があります。平成29年度は、市内の農家レストラン、スーパー・直売所と本学健康栄養学科の3年生が連携し、「ちよいしおメニュー体験キャンペーン」を実施しました。農家レストランでは、学生が考案した減塩・野菜たっぷりメニューを提供、スーパーや直売所では、学生が考案した減塩野菜料理の試食体験を行いました。農家レストランでは試食会を開催し、篠田新潟市長からも好評をいただきました。来年度以降も連携を継続していく予定です。



野菜たっぷりちよいしお定食



見開き2ページを使って、地域の課題解決に取り組む本学教員3名の活動をご紹介します。
背表紙でも他の教員の地域活動を簡単にご紹介していますので、そちらも併せてご覧ください。

植木信一教授の活動紹介

植木教授は、平成23年の東日本大震災直後から7年にわたって、人間生活学部子ども学科を中心とした学生とともに、福島県南相馬市の子どもたちを対象とする、「子ども支援プログラム」や「学生派遣プログラム」等の活動を続けています。

◎ 被災地南相馬市の子ども支援者を支援するプログラムの実施

平成29年度も9月7日から9日まで、植木教授をプログラムリーダーとして、子ども学科の2年生から4年生の学生ら総勢29名が南相馬市を訪問しました。桜井勝延市長(当時)から「大震災を乗り越え、未来を築く」と題する特別講演と励ましのお言葉をいただいた後、市内各地の児童クラブで、子どもたちに宿題を教えることや、おやつを食べたり一緒に遊ぶことなどの支援を行いました。帰る際、再会を約束し、互いに「さようなら」ではなく、「またね」と言い合って、別れを惜しむ様子が印象的でした。なお、この事業は地域連携センター地域貢献推進事業 **注目☆** の助成を受けて行われています。



◎ 福島県南相馬市桜井勝延市長(当時) 本学訪問

平成29年10月24日には、福島県南相馬市の桜井市長(当時)が本学を訪問されました。植木教授から上記プログラムの活動の様子が報告されたほか、平成26年度に締結された子ども支援に関する連携協定が今後も継続されることが確認されました。



写真中央が桜井市長(当時)



注目☆ 地域貢献活動推進事業とは、地域連携センターが行っている事業の一つで、本学教員らが行う地域貢献に資する取組等を助成することで、その高い成果を目指すことを目的としています。平成29年度は6件の事業が採択されました。それぞれの事業報告書は地域連携センターのホームページ(<http://www.unii.ac.jp/region-center/>)に掲載されていますので、そちらも併せてご覧ください。

植木先生から自身の活動に対して一言

7年間の子ども支援活動は、私たちと南相馬市の子どもたちとの間に、信頼関係をもたらしました。南相馬市の子どもたちは、学生スタッフを「キラキラしたお姉さんお兄さん」として見ているようです。そこから子ども自身も「もしかして自分もキラキラしたおとなになれるかもしれない」という将来への希望を描いてほしいと心から願っています。

関谷浩史准教授の活動紹介

◎ 古町に学生サロン「meme(ミーム)」を開設

平成24年からの3年間は、新潟市のがんばるまちなか支援事業に採択され、学生が空き店舗をリノベーションし、古町六番町に学生サロン「meme(ミーム)」を開設しました。AR(強化現実)を介した古町のイメージ調査、携帯端末を利用した来街者の回遊調査、防犯カメラの映像分析によるマーケティング調査など、先端的なICT技術を駆使し、古町に潜んでいる多様な課題を可視化(情報分析)させ、解決策の精度を高めることに尽力してきました。

開学から関谷研究室は、中心市街地の活性化を目的に、地元商店街の空き店舗を減らすべく佐渡や古町で取り組んでまいりました。



学生サロン「meme」



「meme」でイベントの打合せをする学生たち

山中知彦教授の活動紹介

山中教授は、国際地域学科の共通科目「国際地域学C(地域政策)」、「地域社会論」をベースに、主に地域環境コースの学生らを対象に、地域デザインに関する演習など、地域の環境保全や地域活性化に向けた課題解決型の授業を多く行っています。これらの授業では、フィールドワークが課されることも多く、学生は授業を通して、具体的な提案能力を身につけていきます。

◎ 県大生の提案する海老ヶ瀬の暮らし - 海老ヶ瀬本村と空則寺庫裏への4つの提案 -

平成29年8月4日、新潟市海老ヶ瀬本村にある空則寺本堂(<https://yaokami.jp/1155071/>)にて、山中教授の授業「空間デザイン演習A(住居)」の現地発表が行われました。この授業の受講学生12名が4チームに分かれ、それぞれのチームから、この地域に暮らす住民に対し、住職の住まいを含むこのお寺を地域でどのような場として活かすことができるか、地域活性化につなげることができるかなどについて提案発表を行い、住民からは、積極的な質問や講評を頂くなど、意見交換をすることが出来ました。



住民の前で住職からねぎらいと感謝の言葉を受ける学生たち

◎ 学生有志による、「じゅんさい池環境保全事業」への参加

新潟市東区にあるじゅんさい池公園を舞台に、国際地域学部の学生有志が、東山の下地区コミュニティ協議会の方々と協力しながら、1年間にわたり、公園の案内看板デザイン、キャンドルナイト・イベントおよびじゅんさい池公園まちづくりセミナーの企画運営を行いました。この協働事業は、平成28年度の「都市・地域デザイン演習」のカウンターパートを引き受け手いただいた地域住民が、学生の提案を実現させるため、コミュニティ協議会で事業予算を組んでいただき実現しました。



住民とともにじゅんさい池のスイレン祭りを行う学生たち

山中先生から自身の活動に対して一言

私の担当する演習科目では、大学の身近な地域にフィールドを設定し、学生自らが迷いながら地域デザインのテーマを見つけ出し、自らブラッシュアップする能力を身につけることを目標にしてきました。従って、教員は住民に学生のカウンターパートを依頼するだけで、あとはひたすら背中を押す以外、具体的なアドバイスを与えることはしません。そのような過程を通し、山中研究室で卒業研究を志望する学生が育ち、「ふるさと大好き人間」として社会に羽ばたいていきました。



NEXT21の公開空地で実施された携帯端末を活用した来街者回遊調査



ARを活用した古町イメージ調査



古町どんでん実施された防犯カメラの映像分析によるマーケティング調査

その一方で、こうした商店街の自助努力も空しく、人口減少がもたらす収益の低迷化は歯止めがきかず、解決策への抜本的な見直しが余儀なくされ、その矛先は空き家問題にまで波及しました。こうした経緯から平成29年、新潟市のがんばるまちなか支援事業として関谷研究室は、天明町の商店街に隣接した築52年の空き家をリノベーションし、研究拠点「T-Base」を開設しました。空き家という未利用空間に付加価値を与え、地域の「課題」を「魅力」にTransform(変換)させる意図が名前に込められています。

同年9月には、天明自治会の協力のもと、利用者がなく雑草が生い茂っていた天明中央公園(未利用空間)を対象に、いらなくなったモノ(未利用資源)を持ち寄って世代間の交流を促す(付加価値)イベ



築52年の空き家をリノベーションした研究拠点「T-Base」



利用者のいない天明中央公園を再生させるイベント「天明マルシェ」



日本の伝統文化を楽しむ「お抹茶Caf&eatucare」



地図や写真を通じて世代間交流を促す「ストーリーピン」

ント「天明マルシェ」を開催し、地域に新たな賑わいをうみだすことに成功しました。

この事業は、新潟日報の特集記事「地ラボニイガタ」に掲載され、天明マルシェを事業の柱とし、歴史(ストーリーピン)、文化(お抹茶café)、教育(生け花教室)などのサブイベントを介させたところ、停滞していた地域に人の流れが生まれ、世代間がゆるやかにつながる様子が記されていました。

このようにT-Baseの活動は、まだ始まったばかりですが、空き家という負の遺産に対し、空間の価値を「住む(文化)」から「利用(経済)」に変換させ、「商業目的の空き家活用」という新たなプロトタイプを提言し、空き家減少につながる研究活動を継続していきます。

本学には、新潟を盛り上げたいという思いをもって、積極的に地域活動に取り組む学生が多くいます。そうした学生の取り組みのうち、平成29年度に学生が参加し、見事入賞を果たした2つのコンテストについてご紹介します。



参加した学生の声



◎ 本学健康栄養学科1年生が新潟米おにぎりキャンペーン学生企画コンテストで優秀賞を受賞しました!

お米の消費が減少している中、新米の時期(9月~11月)に、身近な「おにぎり」をテーマとして、県内における新潟米の消費拡大につなげようと、新潟県がスーパー・コンビニ等の協賛事業者と連携して、おにぎりや、おにぎりの具材などおにぎり関連商品等の販売プロモーションを実施するキャンペーンを行っています。平成29年7月22日、このキャンペーンを盛り上げるための学生企画コンテストが実施され、本学健康栄養学科1年生のグループが参加しました。新潟県内のラーメン店が、「これを食べれば店の味がわかる」というおにぎりを考案し、それを新潟駅、ラーメン店、コンビニ等で販売するという企画が優秀賞を受賞しました。審査会の様子は以下のウェブサイトからご覧いただけます。

<http://www.niigatamai-onigiri.com/>



参加した学生の声

「今回のコンテストでは、残念ながら最優秀賞を受賞することはできませんでしたが、将来管理栄養士を目指す学生として、感じ、考え、得るものは多かったと思います。これからも新潟米の消費拡大に貢献していけたらと思います。卒業までの残り3年間、このようなコンテストのほか、さまざまな活動に挑戦し、視野を広げていきたいです。」

健康栄養学科1年/関 佳菜

「今回のコンテストでは、新潟名物のラーメンと新潟の美味しいお米を使用したおにぎりのコラボレーションを実現させたいという思いから企画に参加しました。企画を進める中で、お米の大切さや食に対する考え方を見つめ直すことができ、将来食に関わる仕事を目指す学生として良い経験になりました。おにぎりキャンペーン関係者の皆さん、この企画への参加を呼びかけてくれた関さんに感謝しています。」

健康栄養学科1年/中易萌香

「今回のコンテストを通して、普段何気なく食べているお米について考えを深めることができました。管理栄養士を目指す学生としても、白米の消費量向上に関する企画に参加できたのはとても有意義であったと感じました。」

健康栄養学科1年/叶野菜優

◎ 本学国際地域学科1年生が新潟国際化デザインコンテストで新潟県異業種交流センター賞を受賞しました!

平成29年9月30日、「クロスパルにいがた」において、県内外5大学の学生による、第1回新潟国際化デザインコンテストが開催されました。『住みよい街、新潟の探求』をテーマに、各大学から新潟が魅力ある国際文化創造都市となるためのプレゼンテーションが行われました。企業、経済団体、大学、高校、自治体など80名以上の方々に参加する中、本学国際地域学科1年生の学生チームは、『十日町の魅力を活かすために』をテーマに地域の町おこしに関するプレゼンテーションを行い、見事新潟県異業種交流センター賞を受賞しました。



「今回のコンテストを通して、私の地元である十日町の魅力をあらためて発見することができ大変うれしく思うと同時に、地域研究に励む学生として、またひとりの十日町市民としても大変貴重な経験ができたことに深く感謝いたします。これからも、地元十日町ひいては新潟をより魅力ある県にしていきたいために自分に何ができるか考え、発信し続けていきたいです。」

国際地域学科1年/丸山佳乃

「今回、留学生たちと実際に十日町へ足を運んで、地域資源の活かし方など、多くのことを学び、それをテーマにしたプレゼンテーションで、この賞を頂いたことは、私にとって非常に貴重な体験であり、大変感謝しています。これからも自然豊かな新潟の魅力に多くの人が気づき、新潟を訪れてくれたら嬉しいです。」

国際地域学科1年/学生

公開講座 開催報告

新潟県立大学では、平成21年の開学以来、地域の皆様を対象にした有意義な公開講座を開催してきました。今年度は、「地域を守る。家族を守る。～いざという時のために～」をテーマに2回シリーズで開催しました。

第1回公開講座報告



平成29年11月12日、新潟駅前のコープシティ花園ガレソホールにて、第1回公開講座を開催しました。中越大地震の復旧復興を担当した元新潟県職員の渡辺氏をお招きし、「災害復興と地域づくり～大震災からの経験と教訓～」という題目で、講話とパネルディスカッションを行いました。いつ遭遇するか予測ができない災害への対処を目的に、中越大地震の復興プロセスを敷衍することで、市民に求められる災害への備え、有事の際の復旧復興への教訓、持続可能な地域再生を生み出す社会システムの在り方を学び、災害に強いまちづくりについて考える場を提供することができました。



参加者の声 (アンケートより)

- ・災害復興からはじまるまちづくりにより、より強固で魅力的なまちづくりを行うことで、さらにその地域が以前にも増して活性化することが可能であることを知ることができ、新たな視点をもつことができました。貴重なお話をありがとうございました。
- ・過去の災害の教訓を聞くことができてよかった。震災の現状を知ることができた。

第2回公開講座報告

第2回公開講座は、平成29年12月3日、新潟県立大学にて開催しました。「家族を守る。～我が家でできる災害の備え～」と題して、子育て家庭における備え、食の備えの2つの視点から、それぞれのエキスパートであるNPO法人ワーキングウイメンズアソシエーション副理事長の菊野麻子氏、新潟県三条地域振興局健康福祉環境部管理栄養士・防災士の土田直美氏をお招きました。また、本学健康栄養学科4年生による災害食バッククッキングの紹介、試食提供も行いました。災害への備えは決して特別なことではなく、災害への備えが手軽で身近に感じられる機会となりました。



参加者の声 (アンケートより)

- ・この講座に参加して、防災意識が高まりました。
- ・家族の一員として、職人として、それぞれの立場で災害と向き合うことの難しさを知ることができました。
- ・今まで大きな災害を経験したことがなく、重く考えられていない部分があると思いました。防災用具の準備等、家族に働きかけてみようと思います。



公開講座記録集のご案内

本学地域連携センターで開催した公開講座はすべて、その講座内容を記した記録集を発行しています。記録集は本センターのホームページでも、電子書籍としてご覧いただけます。
<http://www.unii.ac.jp/region-center/>



バッククッキングによるカレーライス